

国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラム（アポイントメント）実施報告書

明治大学情報コミュニケーション学部 准教授 清原聖子

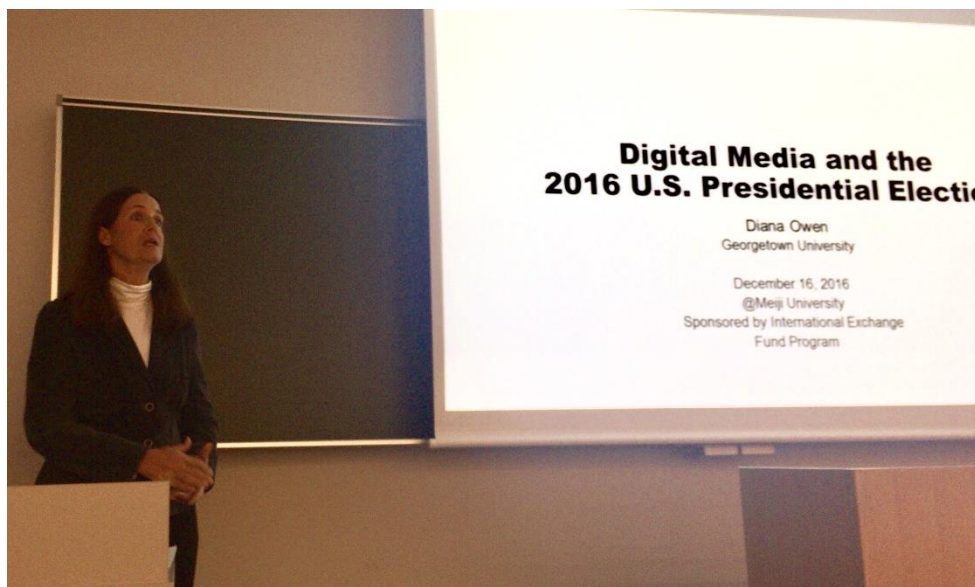
招請者氏名 Diana Marie Owen

所属機関 Georgetown University/ Associate Professor

招請期間 2016年12月13日～2016年12月21日

2016年12月13日にアメリカを出発し、オーエン先生はご夫妻で12月14日に日本に到着された。翌15日に、明治大学にお越しいただき、国際連携事務室にご案内した。事務的な手続きを済ませ、情報コミュニケーション学部の大黒学部長をご紹介し、米大統領選やその後のアメリカ社会についてランチミーティングの中で歓談した。

12月16日には、情報通信学会のインターネット政治研究会と共催で研究会を開き、オーエン先生に「**Digital Media and the 2016 U.S. Presidential Election**」と題して、ご講演頂いた。アメリカの大統領選にこれまでどのようにデジタルメディアが使われてきたのか、その発展過程から始まり、2016年大統領選における民主党ヒラリー・クリントン候補、共和党ドナルド・トランプ候補のデジタルメディアの活用を比較検討する内容であった。講演の最後で、「今回の大統領選は **post-truth news** 時代の始まりとして歴史に残る」「ツイッターや偽情報が政治的に重要な政策課題を議論することを妨げた」という指摘が印象的であった。オーエン先生のご講演に続き、上智大学の前嶋和弘教授にコメンテーターとして登壇していただき、さらに参加者からの質問を受け付け質疑応答の時間を十分にとることができた。事前の広報活動の成果か、通訳がつかないイベントにもかかわらず、20代から60代まで、大学院生から研究者、IT企業の方など、30名以上の参加者があり、企画した者としては安堵した。





(12月16日の研究会で講演するオーエン先生)

12月20日には、オーエン先生ご夫妻は、和泉キャンパスで2年生の清原ゼミの学生向けに講義を行った。始まる前に、希望者には図書館で雑談をしましょう、と呼びかけておいたところ、2年生のゼミ生と来年度清原ゼミに入る予定の学生が現れ、アメリカの大学についてざっくばらんにお話をする機会をもてた。その後授業では、初めにゼミで準備していた5人の学生が1つのチームとして、アメリカの視点から見たTPP問題、というテーマのプレゼンテーションを英語で行った。オーエン先生ご夫妻からの質問に学生はひるむことなくすべて答え、よく勉強してある、とお褒めの言葉を頂いた。その後オーエン先生ご夫妻から、2016年大統領選の争点として、経済政策と環境保護政策について、クリントン、トランプ両候補の立場の違いについて解説して頂いた。思っていたよりも学生たちの反応が良く、英語で質疑応答ができた点は、大変嬉しく感じた。



(12月20日の授業風景)

企画準備は目まぐるしく、最後の授業が終わるまで気が気ではない面があり、大変であったが、講演会、授業、その他共同研究の打ち合わせなど、今回の企画は期待していた以上に良い手ごたえを得ることができた。そして、ジョージタウン大学での在外研究中にお世

話になったオーエン先生ご夫妻に日本滞在を十分に楽しんで頂けたことも何よりであった。今後も何らかの機会を見つけて、オーエン先生との共同研究や授業のコラボレーションをしていければ、と考えている。